



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



Vol. 8

会長・幹事殿



Contents

- 02 ガバナーメッセージ
- 04 平和構築と紛争予防月間にあたり
- 06 日本 - ウクライナ国際共同委員会報告
- 07 上半期を振り返って
- 08 第 2590 地区の更なる活性化を願って
…バストガバナーリレー⑦
- 10 国際協議会を終えて
- 11 2026-27 年度 RI 会長メッセージ
- 12 地区活動報告
(2025 年 12 月・2026 年 1 月)
- 16 年度後半に向けて

- 17 川崎西ロータリークラブ
創立 60 周年記念式典を終えて
- 18 横浜南ローターアクトクラブ
創立 55 周年記念例会報告
- 19 横浜市立大学ローターアクトクラブ
認証状伝達式・チャーターナイト報告
- 20 第 2590 地区ローターアクトニュース
- 21 地区同好会紹介⑦
- 22 「地区補助金」プロジェクト募集開始案内
- 23 新会員のご紹介/ロータリー青少年交換学生紹介
- 24 2025 年 12 月会員数報告 (RC・RAC)

トレッキング同好会

よいことの
ために
手を取りあおう

2025-26年度 RI 会長メッセージ



平和構築と紛争予防月間

国際ロータリー第 2590 地区ガバナー 大塚 正一

2 年前のお正月は、1 月 1 日に能登半島大地震、翌日 2 日には羽田空港での飛行機同士の衝突事故とショッキングな災害と事故で始まりました。

今年は、そのような大きな災害や事故なく迎えることができ、まずは一安心です。当たり前の生活ができる、それは大きな幸せであるはずですが、我々は得てしてそのことを忘れがちです。

ロシアによるウクライナ侵攻は終わりを見るできません。今の様子では最終的には、ウクライナはクリミヤ半島に続き、大きく国土を失うことになってしまいそうです。割譲されなかった領土も戦火に焼かれていることでしょう。この国土の回復には、相当な年数を要することでしょう。

2 月は平和構築と紛争予防月間です。昨年のガバナー月信の 2 月号に、ロータリー平和フェローの 23 期生のリアン・ジェイアクマールさん（オーストラリア）によって書かれた「平和」に関する文章がありました。たまたま、彼女の書いた英語の文章をガバナー月信に掲載するため翻訳するように依頼されましたので、彼女の記事がとても印象に残っていました。そんな事もあり、同じ 2 月に開催した川崎北 RC の 65 周年記念例会の折に、ロータリー平和フェローの 22 期生のニコール・マックネヴィンさん（米国）にも、「平和」について語っていただきました（抜粋版を 4、5 ページに掲載）。

現在、「平和」は「消極的平和（Negative Peace）」と「積極的平和（Positive Peace）」に分けて語られることが多いようです。例えば、ロシアとウクライナ、パレスチナとイスラエル間の争いの解決の道を探る、その後の安寧を模索するなど、戦争にどう対処して平和を構築するかを考えるのが「消極的平和（Negative Peace）」です。では、「積極的平和（Positive Peace）」とは何か、それは戦争が起こらなくすることです。自分の国から戦争の起因となる可能性のある問題、貧国・経済不安・政治不安などをなくす取り組みをすることです。

お二人が共通して訴えていることは、「積極的平和（Positive Peace）」の重要性です。「平和」を実現するには民主化・市場経済の改革・法の支配・人権尊重を基本概念とすることが必要であり、また、それ以外にも、その地域の主体性、独自性、伝統・慣習を平和プロセスに組み込む必要があるということです。

お二人の平和論に接して、私は第二次世界大戦後の日本の平和構築プロセスには、主体性、独自性、伝統・慣習が抜けてしまった、そこにその後の日本の政治・経済の混乱が起因していることに気がつきました。

また、今年度日本のガバナー会で協力しようとしている、ウクライナの復興後の平和を考える上でも示唆に

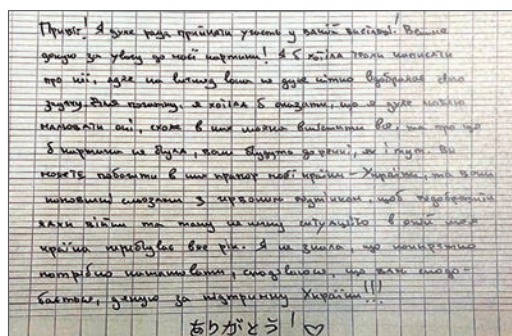
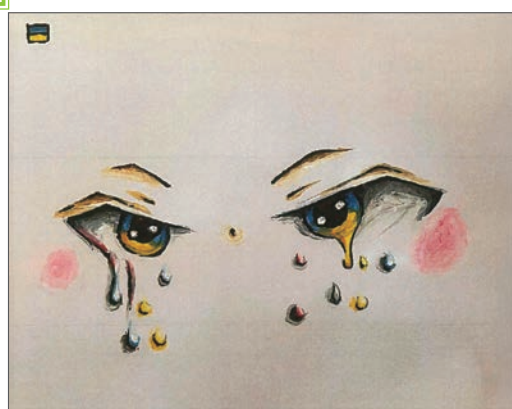
富んだものです。外部主導による、単なるトップダウン型の平和構築のアプローチは避けるべきであり、国土の独自性、国民性を基調にしたリベラルな平和構築のプロセスが必要であると理解できました。

昨年日本のガバナー会は、ウクライナと日本の二国間で、国際共同委員会（ICC）を立ち上げました。本来、国際共同委員会（ICC）は積極的平和（Positive Peace）の考えに根差した平和構築運動です。ICC を締結した二カ国のロータリー会員・クラブ・地区は、距離的に離れていても、お互いが協力して共通の活動に取り組むことで、コミュニケーションと相互理解が向上し、自国内で積極的平和の構築プロセスを促進できるのではないのでしょうか。

とはいえ、今の段階でのウクライナと日本の二国間での ICC 設立は、まずは消極的平和（Negative Peace）の構築プロセスから始まらざるを得ません。戦争終結後のウクライナが立ち向かわねばならぬ問題に協力していきたいという思いです。

本来の ICC の姿は、さまざまな国の人々の異文化理解を促進し、さまざまな国の会員、クラブ、地区間の絆を強め、国境、大陸、海を越えたネットワークを確立し、お互いの国の中で積極的平和（Positive Peace）を謳歌することです。そして、ロータリー財団（TRF）のプログラムへの支援を提供して、7つの重点分野における国際奉仕の有効性を高めるのにも役立つものと信じます。

地区内クラブの3分の2以上の賛成を頂き、第2590地区はウクライナと日本の二国間での ICC に加盟することができました。ご理解とご協力をありがとうございました。まだ暫くは設立準備に時間を要すると思いますが、今後の国際共同委員会（ICC）の活動にご注目ください。また、横浜戸塚 RC の鈴木武道会員には、当初より大変ご尽力いただいております。この場を借りてお礼を申し上げます。11月のロータリー研究会会期中に行われた ICC 調印式の様子をご報告いただいておりますので、そちらの記事もぜひご覧ください。



ウクライナの首都・キーウで育ち、昨年春先に姉妹2人でパリへ避難したクリサ オレーシャさん。今はパリの学校に通っています。「絵」と「手紙」を別にして遥々パリからメール添付にて送ってくれました。

【手紙の翻訳】

こんにちは！ 私はあなた方の展覧会に参加できてとても嬉しいです。私の絵手紙を読んで下さってありがとうございます！！

この絵に込めた想いを書きたいと思います。

私は普段から、目を描くのが本当に好きです。なぜなら、目はあらゆる事を語る事ができるからです。そこに描かれていないものさえまでも…。

皆様には、この絵の中に私の国・ウクライナの国旗が見えるでしょうか？

その国旗と同じ色彩を有する目は、私の母国がほぼ1年にわたって置かれている悲惨な戦争と困難な状況を表す赤い色合いの涙で満たされています。

この絵を皆様が気に入ってくれたら嬉しいです。

ウクライナを応援し、支えてくれてありがとうございます！！

（日本語で）ありがとう♡

（出典：川崎北ロータリークラブ主催 2022-23 年度世界子ども絵手紙展より）



「平和」とは？

ロータリー平和フェロー 22 期生 ニコール・マックネヴィン

(米国：ホスト地区 D2770 埼玉県)

～川崎北 RC 65 周年記念例会卓話より抜粋～

国際基督教大学 (ICU)、ロータリー平和フェロー 22 期生のニコール・マックネヴィンと申します。(中略) アメリカの大学を卒業後 1 年間アメリカで働き、その後来日を果たし、4 年間くらい青森市で英語の教師として勤めていたときに、

「国際教育」についていろいろな気付きがありました。ロータリー平和フェローシップの奨学金を受け取って ICU に入学し、1 年半 ICU で「国際教育」を自分のテーマとして研究しました。(中略)

私がロータリアンによく聞かれるのは、「あなたの研究と平和とのつながりは一体どこですか？」ということです。確かに、私が研究している国際教育は直接的に「戦争」とか「紛争」などには関連しておりません。このような暴力的なものとは直接関わりのない研究は、「平和学」には当てはまらないといえるのでしょうか？(中略)

そこで、皆様、「平和的な社会」を想像してみたい。何が見えますか？ その社会に生きている人間たちは何をしていますか？ また、どのような施設がありますか？ 学校があるとしたら、子どもたちは何を学んでいますか？ そして、どうやって学んでいますか？

皆様が想像している「平和的な社会」には、「紛争のない」ことが前提条件ではないでしょうか。しかし、それだけではないでしょう。きっと、質の良い教育や生活しやすい環境、綺麗な空気、高齢者や病気のある人を十分にサポートしている制度などを実施している社会ではないでしょうか。

実は、有名な平和学者のヨハン・ガルトウング氏によると、「平和学」の中に平和は 2 種類あります。一つは、皆様がよく知っている「紛争のない」状態を指している平和です。それは「ネガティブピース」、いわゆる「消極的な平和」と呼ばれています。消極的な平和は紛争の直接的な抑圧から生み出される状態です。ただし、紛争がないからといって、それだけで正義や持続可能な制度が備わった社会であるとは限りません。実際、より平等な社会を実現するためには、ときには争いも必要であると言う平和学者もいます。例えば、フランス革命の紛争は非常に暴力的なものではありましたが、結果的にフランスの国民は国の政治権力システムを変更し、現代の人権の概念を築きました。つまり、紛争がなければ、正義が生まれてこなかったということです。消極的な平和は望ましくないものとは言いませんが、平和的な社会を築くためには、それより高い理想を持った方が良いでしょう。

二つ目の平和の種類は「ポジティブピース」、いわゆる「積極的な平和」です。まず一つはっきりさせてください。

積極的平和は消極的平和の反対ではありません。どちらかというとお互いに重なり合うものです。消極的平和は紛争のない状態を指している一方、積極的平和は「ない」ものではなくて、「ある」ものを指しています。例えば、社会に正義があるか、質の高い教育が提供されているか、平等が保たれているかなど、これらを重視する視点は「積極的平和」を中心としたものです。つまり、積極的平和アプローチの目標は、「ある」ものを揃え、差別、貧困、不平等などの紛争や人間の苦しみの原因をなくすことです。

「積極的平和」と「消極的平和」といった概念的なカテゴリーを理解することが、「平和」そのものを定義するには重要です。数分前、私は皆様に尋ねました。「平和な社会」を想像してみてください、と。多分、ここにいらっしゃっている皆様は消極的平和の「紛争のない」という条件と、積極的平和の「紛争の原因となるものにうまく対応する制度や施設がある」という条件、その2つが満たされた社会を想像したのではないのでしょうか。

では、どうやってそのような社会を生み出せますか？ それには、「人間同士の関係」が必要になってきます。とても基本的な行為ですが、この平和を達成するために私たちができることは、多様な背景を持つ人々と関係を築くことです。あらゆる社会の関係者と関わり、その人たちと共感を持って接しましょう。自分と関わりのある人々の人権が尊重されているかを確認してください。特に、これらの人権や権利が性別、身体の障がい、年齢、宗教、民族アイデンティティなどによってどのように影響を受けるかに注意を払ってください。

この行動を通じて、戦争、紛争、暴力の原因を取り除くことができます。そして、それによって長期的な平和をどこでも実現することが可能になります。最後に、平和構築者の活動は、世界で最も危険な地域に限定されません。平和への理解とその構築は、私たち自身の経験から生み出されているものであり、私たちのすぐ近くにあるコミュニティから始まるものです。それが私の研究テーマでもあります。（後略）



日本－ウクライナ国際共同委員会 (Japan-Ukraine ICC) 報告

日本－ウクライナ国際共同委員会 (Japan-Ukraine ICC) がいよいよ始動します！

日・ウ国際共同委員会 (ICC) Country Coordinator 鈴木 武道 (横浜戸塚)



2025 年 11 月 17 日、横浜にて Japan-Ukraine Intercountry Committee (ICC) の締結式が、日本とウクライナ両国ガバナー参加のもと、開催されました。

締結式に際しては、日本側からは日本のガバナー会を代表して、日本・ウクライナ ICC 会長でもある加藤雄彦ガバナー（第 2520 地区・仙台 RC）と、日本側 ICC カントリー・コーディネーターである私、鈴木武道（第 2590 地区・横浜戸塚 RC）、そしてウクライナ側からは、ウクライナ第 2232 地区オルハ・パリシャックガバナーと、同地区セルギー・ザバスキーパストガバナーとの 4 者により、合意書に調印が行われ、日本・

ウクライナ ICC 設立が、日・ウ間で正式に合意されました。

ちょうどロータリー研究会の会期中ということもあり、調印・締結式に於いては、日本側からは、ガバナー同期会に出席の多くのガバナーがご夫妻で参加され、晚餐会に於いては、皆さんで日本とウクライナの国旗を振って、両国間の調印を祝し、今後の復興支援プロジェクトの成功を祈りました。

日・ウ ICC は、日本とウクライナの 2 国間で平和を取り戻すための、友情と相互理解の推進のための「国際奉仕のもう一つのかたち」として、ロータリー章典第 3 章 21.020 の規定に基づいて実施されます。ICC の使命は、「異文化の理解を深め、多様性を受け入れ、平和を推進することです。参加するロータリアンは真の「平和の大使」として活動して参ります。

「日・ウ ICC 設立合意書」の内容は、正式に日本とウクライナに、日・ウ国際共同委員会の組織を設置して、ウクライナ復興支援プロジェクトを推進するための「基本合意を目的とした合意書」です。

本年 1 月 23 日からウクライナで開催予定の ICC セミナーにおいて、今後、具体的なプロジェクト・スコープと将来計画について議論される予定ですが、具体的な支援内容はこれからという段階です。最初に取り組むプロジェクトは医療支援です。

日本の多くの地区がこのウクライナ復興支援プロジェクトに興味を持って、復興支援プロジェクトに積極的に関与される事を切に願っています。



地区幹事 **横山 芳春**（川崎北）



早いもので、地区役員としての任期も折り返しとなりました。

就任当初は、地区役員という重責に身の引き締まる思いと同時に、自分に務まるのだろうかという不安もありましたが、各クラブの会長・幹事の皆さま、そして地区役員の皆さまに支えられながら、この半年間、務めることができたことに深く感謝申し上げます。

地区幹事として地区運営に携わることによって、様々な地区の活動を知ることができました。

特にロータリー財団・米山・青少年交換といった奨学生制度は、寄付することだけで活動内容を自分から知ろうとしていませんでしたが、直接奨学生たちの話を聞くことによって、改めてプログラムの重要性和素晴らしさを感じることができました。

また、これらの各事業を実施することができるのは、地区役員の方々が、熱心にまた献身的に活動頂いているお陰だと思っております。私自身、行事や会合を通じて、多くの会員の方々とお会いする機会を得られていることも大変有り難いことです。

ロータリーの活動はもとより、幅広い年齢層と職業の方々の経験と知識を聞くことによって、学びと気づきを得ることができました。

そして、他クラブの活動を知る機会も増えました。各クラブの活動においてもクラブの大小を問わず、それぞれの地域に根ざし、創意工夫を凝らしながら奉仕活動に取り組まれている姿です。ロータリーの理念は共通でありながら、その表現の仕方は多様であり、そこにロータリーの強さと魅力があるのだと実感しています。

地区としてクラブを支援する立場に立つことで、「奉仕の理想」を広い視野で考える大切さも学びました。

一方で、ロータリークラブが抱える課題も少なくありません。会員の増強、次世代への継承、変化する社会への対応など、私たちが向き合うべきテーマは多岐にわたります。

時代の変化に臆することなく、これらの諸問題に取り組んでいかなければなりません。

しかし、これらの課題も、会員一人ひとりがロータリーに誇りを持ち、楽しみながら活動することで、必ず前進できると信じています。

残りの半年も皆さまの声に耳を傾け、地区とクラブを繋ぐ架け橋として、誠心誠意努めて参りますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

是非、ご一緒に楽しみながらロータリー活動して参りましょう。



「思いやり」原点に戻って

第2590地区パストガバナー 高良 明（川崎西）

茶の道を極めた千利休の言葉に、「稽古とは、一より習い十を知り、十より帰るもとのその一」というのがあります。いかに道を極めた名人であっても、常に原点に立ち返り、基本を大切に精進することが大切である、という意味でしょう。

私は1984年、今から41年前に川崎西ロータリークラブに入会しました。その後、SAA、幹事、会長などを歴任し、2016-17年度には国際ロータリー第2590地区のガバナーを拝命いたしました。が、「辿り着いて未だ山麓」という心境で、学ぶべきことは尽きません。

今年度はガバナー年度から数えて10年目を迎えます。原点回帰の思いを込めて、古巣クラブで親睦活動委員長を務めることになりました。気持ちは“古古古米の新米”。初心に返り、ロータリーの神髄を体現してまいります。

クラブ運営と創立60周年、「思いやり」の具現化に向けて

今年度、川崎西ロータリークラブは創立60周年という節目を迎えました。私は親睦活動委員長とあわせて、60周年実行委員会の企画コーディネーターも拝命しています。創立60周年の鈴木克明実行委員長、棚部哲男副実行委員長を支えながら、企画全体を調和させ、成功へ導く責務を感じています。

活動の軸として、以下の3つのテーマに重点を置きました：

1. 創立60周年記念行事と親睦活動の調和
2. 会員の活力を生かしたクラブ活性化と魅力づくり
3. 60周年テーマ「思いやり」の具現化

1. 記念行事と親睦活動の調和

例会場に「創立60周年」を象徴するブリザーブドフラワーの装飾（縦横60センチの額入り作品と籠飾り）を設置し、毎回の例会を格調高く演出します。会員の意識向上を図るとともに、ゲストへの歓迎の気持ちを形にしました。さらに、情報交換や自由な会話の場としての「情報・交流テーブル」を設け、茶菓子や資料を配置することで、和やかで有意義な雰囲気を目指しています。

2. クラブ活性化と魅力づくり

研修（ラーニング）委員会と連携し、毎例会で「なるほどザ・ワード金言集」を紹介、会報にも掲載するなど、例会に魅力を持たせる工夫を凝らしています。また、毎年恒例の「サロン」も継続し、会員同士の交流と親睦を深める場として活用します。

3. 「思いやり」の実践

病気などで例会に長らく出席できない会員に対しては、「思いやり」の気持ちを込めて、会員全員の署名入り色紙をお贈りすることとしました。12月19日の60周年記念式典において、感謝と励ましの心を伝える予定です。（なお、鈴木実行委員長は現在病気療養中であり、回復を心より願っています。）

クラブの活性化に向けた提言

ロータリーは企業の営利事業とは異なり、成果を数値で測ることは難しいものです。会員数や寄付額だけで成果を測ることはできません。しかしながらクラブを活性化するためにも会員増強は欠かせない重要課題であり、ロータリーの精神に沿って挑戦し続けることが重要です。

私ども第2590地区において、クラブ活性化が長年の課題となっています。1999-2000年度には62クラブ・3,026人だった会員数が、2024-25年度には50クラブ・1,800人未満と、会員数は約40%もの減少を記録しています。1,200人の減少は、ひとつの地区が形成できる規模に匹敵します。

なぜ、減少は止まらないのでしょうか？

- 活動や組織の目的に魅力を感じられなくなっている
- 社会・経済状況の悪化
- 人間関係の問題（派閥、孤立など）
- RIの方針や運営に対する不満 など

このような要因に対し、ガバナーやクラブ会長、そして会員一人ひとりが真剣に向き合い、今こそ具体的な対策が求められます。

原点に立ち返る

かつて私たちがロータリーに入会したとき、そこには期待や理想があったはずです。新たな仲間との出会いや、地域社会への奉仕など。もしその期待が裏切られたと感じるとすれば、その理由を今一度見つめ直さねばなりません。

退会の理由には、やむを得ない事情（病気・転勤など）もありますが、多くは次のような課題に起因していると考えられます。

- 意義ある活動や魅力的な例会運営の不足
- 人間関係の希薄さ・閉鎖性
- 希望やビジョンの欠如
- 時間や費用に見合わないという印象
- 組織理念の理解不足と価値観の希薄化

今こそ、120年前のロータリーの原点に戻る時です。

未来へ向けての提言

「The ideal of service（奉仕の理念）」というロータリーの目的・原点に立ち返り、他者を思いやり、他者の役に立つ行動を通じて、真のロータリーを体現していきたいものです。

初代事務総長チェスリー・ペリーの言葉に、「ロータリーとは、他人のことを思いやり、他人の助けになることだ」とあります。この定義を今一度胸に刻み、

- 親睦
- 高潔性
- 多様性
- 奉仕
- リーダーシップ

という中核的価値観を礎に、クラブが明確なビジョンと戦略計画を持ち、魅力ある運営とクラブの活性化を実現していきたいものです。

ガバナーエレクト 宮田 彰久（横浜南）

1月11日から15日まで、アメリカのフロリダ州オーランドで行われた国際協議会に参加してきました。世界中から500人を超えるガバナーが集まり、楽しく有意義な時間を過ごすことができ、大変勉強になりました。33人の日本の同期ガバナー（34地区のうち一人欠席）もそうでしたが、特に外国のガバナー達は心からこの国際協議会を楽しんでいるように見えたのと、外国では女性のガバナーが多いような印象を受けました。このような機会を与えてくださったロータリーと送り出して頂いた皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

オラインカ・ハキーム・ババロラ RI 会長エレクトはナイジェリアの方で、ロータリアンになるまでの10年間をローターアクターとして活動されました。ローターアクト出身のRI会長は初めてのことです。現在50才代（正式な生年月日は発表されていません）と歴代のRI会長の中でも大変若く、気さくに写真撮影に応じてくれる会長です。

2026-27年度会長メッセージは「CREATE LASTING IMPACT」、「持続可能なインパクトを生み出そう」と、力強く発表されました。国際協議会でのオラインカ会長エレクトのスピーチを簡単に要約すると、下記ようになります。

- ① ロータリーが自分自身をいかに変えたかを理解する
- ② 新会員にはより歓迎的な姿勢で迎え入れる
- ③ 過去のベストを超える
- ④ インパクトを理解する

詳細は別の機会に譲りますが、これは今年度の「UNITE FOR GOOD」、「よいことのために手を取りあおう」と、同じ方向を向いた、継続性のあるメッセージだと理解しています。

「成功とは向こうからやって来るものではありません。自分でつかみに行かなくてはならないのです。自分を変えられれば、クラブと地区を変えられます。地区を変えれば、地域社会を変えられます。そして、地域社会を変えられれば、世界で、地域社会で、自分自身の中で持続可能なインパクトを生み出すことができます。」

上記のオラインカ会長エレクトの言葉を胸に刻み、次年度の準備を加速して行きたいと思いますので、宜しくお願い致します。



オラインカ・ハキーム・ババロラ RI 会長エレクト



2026-27 年度 RI 会長メッセージ



～以下出典：RI サイトより～

2026-27 年度のメッセージ「**持続可能なインパクトを生み出そう (Create Lasting Impact)**」は、行動人としてロータリー会員が協力し、地元や海外の地域社会で有意義な変化をもたらしていくことを奨励しています。これは、2025-26 年度のメッセージである「よいことのために手を取りあおう」を実現するために会員が互いに、また地域社会との結びつきを強めてきたことを土台としています。「持続可能なインパクトを生み出そう」は、こうしたつながりを活かし、会員、参加者、市民が、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で持続可能な変化をもたらすための協働を鼓舞するメッセージです。

ロータリーを通じて会員が持続的な変化を生み出していることを世界に伝えるため、奉仕活動や地域社会でのそのほかの取り組みを通じてクラブがもたらすインパクトを示す情報を集め、ストーリーを広めることができます。「個人的見解：ロータリーの価値」シリーズの動画を共有するのも優れた方法となります。これらの短い動画は、ロータリーが世界で、そして会員の人生においていかに前向きな変化を生み出しているかを紹介しています。



地区活動報告（2025年12月・2026年1月）

● インターアクト国内研修（鹿児島）報告

地区インターアクト委員長 下中 英輝（横浜緑）

今年度インターアクト研修旅行に際しては、出発前に2回オリエンテーションを開催しました。第1回目12月6日のオリエンテーションでは研修日程や研修ルール及び注意事項などを説明し、12月20日の第2回オリエンテーションでは最終確認事項の説明と、旅行中は7班に分かれて研修等行うため、各班に分かれて2日目の鹿児島市内の散策スケジュールなどを検討してもらいました。

その後、ガバナーをはじめ地区役員、顧問教諭も参加のもと結団式を行いました。インターアクトの生徒たちと共に研修旅行が無事終わられるよう大塚ガバナー、宮田ガバナーエレクトから激励の言葉を頂き、実りある研修旅行にしようと皆で気持ちを新たにしました。



本年度は、戦後80年という節目の年でもありましたので、鹿児島に行き戦争と平和について体験学習してもらう事と、日本の幕末の歴史を知ってもらう研修にいたしました。円安の関係で、渡航費も上がり予算的にも厳しい中、今回は海外には行けなかったのですが生徒たちが国内でも良い研修が行えたことに感謝申し上げます。

昨年の海外研修では、旅行中インフルエンザにかかった生徒もいましたので、現地で病気やけがの心配をしていましたが、全員何事も無く帰れたことに何よりほっとしています。旅行当日は羽田空港から出発する飛行機が1時間遅れとなり、どうなるかと思いましたが、その後は旅行の行程もスムーズに進める事が出来ました。

1 日目は、鹿児島空港から知覧特攻会館までの移動中、バスの中で「流れる雲よ」という、特攻隊出撃最後の日をモチーフにした舞台劇の DVD を見て頂き、知覧特攻平和会館での予習をしました。実際に会館で見学をしながら、語り部の方からお話を聞き、戦時中の人々の思想や悲慘さが生徒たちには感じ取れたと思います。その後、武家屋敷庭園群へ移動し、昔の建築物を見学いたしました。ホテルにチェックイン後、夕食となりましたが、当日誕生日の生徒がいましたので、12 月生まれの生徒たちと共にバースデーケーキを用意してお祝いをし、初日を終わることが出来ました。

2 日目は生徒たちを 7 つのグループに分け、地元志學館大学の学生と、鹿児島市内をグループごとにご当地グルメや観光スポットを自由に散策してもらいました。午後には鹿児島水族館のバックヤード見学で職業体験も行い、西郷南洲顕彰館にて幕末の勉強も行いました。

3 日目は鹿児島港からフェリーに乗り、桜島へ火山体験ツアーを体験し、火山近隣で生活する為の対応や様々な環境の違いを学びました。

12 月 26 日～28 日の 3 日間と短い期間の中、各校の生徒たちが仲良くなっていき、インターアクトの生徒たちが分けへだたりなく仲良くしていたことにとても感動いたしました。この研修は交流の場として、とても大切な機会でもあり、みんながインターアクターである素晴らしさも体感してもらえたと実感しました。

生徒たちにこのような機会を与えて頂き、皆様のご協力並びにご尽力頂き感謝の言葉しか浮かびません。私自身も生徒たちと仲良くなれた事が一番の思い出です。インターアクトの生徒たちにも本当に良い経験になったと思います。皆様、本当におつかれさまでした。



水族館



知覧特攻



夕食風景



知覧特攻平和会館



桜島

12月21日（日）、ホテルプラムにおいて「米山奨学生を囲む集い」を開催いたしました。

当日は、大塚正一ガバナーをはじめとする地区関係者、クラブ関係者、学校関係者、米山奨学生、米山学友の皆様にご参加いただき、和やかな雰囲気の中で交流を深める有意義な会となりました。

本会では、公益社団法人服飾文化研究会のご協力のもと、恒例となりました奨学生を対象とした和装体験を実施いたしました。希望者には女性・男性それぞれ着付けの機会を設け、日本の伝統文化である和装を実際に体験していただきました。慣れない和装に戸惑いながらも、参加者同士が交流し、終始笑顔の絶えない時間となりました。

また、和装体験にあわせて、公益社団法人服飾文化研究会 副会長／国際交流部 堀江陽子様による着物のレクチャー（講義）を実施し、着物の歴史や文化的背景、装いに込められた意味などについて分かりやすくご説明いただきました。実体験と講義を組み合わせることで、参加者にとって日本文化への理解をより深める貴重な機会となりました。

奨学生たちはこの会での交流を通じて、互いの近況や学業生活について意見交換が行われ、親睦を深めることができました。

式典では、開会の言葉に続き、来賓・地区役員・学校関係者の紹介、地区代表挨拶、来賓代表挨拶、乾杯が行われ、その後の懇親会およびアトラクションを通じて、世代や国籍を越えた交流の輪が広がりました。

本事業は、米山奨学生支援の趣旨を改めて共有するとともに、日本文化への理解促進、地区内の結束強化という点においても大変意義深いものとなりました。ご協力・ご参加いただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。



年末年始休み明けで、頭はまだ休みボケが抜けきらない1月10日、朝7:30に新横浜駅に集合し、ロータリー青少年交換来日生、派遣候補生、ROTEXと共に京都・広島研修旅行へ行ってきました。来日生は日本語の習得にバラツキはあるものの、だいぶ上達しており、私とのLINEでの連絡も日本語でできるようになってきました。派遣候補生はまだまだぎこちなさが残るものの、たった3日間のうちに候補生としての自覚が芽生え始めたのが分かります。そしてそれをサポートしてくれたのがROTEXの二人です。彼女らは言語のみならず、来日生への寄り添い方や、言葉が通じない時の対応の仕方など、やはり一年間異文化に接し、また派遣先で多くの交換生とのやり取りが無意識のうちに活きているのが分かります。とても頼りになりました。

京都での金閣寺、清水寺、伏見稲荷神社、広島の厳島神社については、来日生に事前に調べて発表してもらっていましたので、きっと「キレイ」「楽しかった」以上の学びがあったと期待しています。広島では厳島神社と平和記念資料館、原爆資料館を訪問しました。厳島神社は毎年来日生に大人気で、今年は雪の降る中、ライトアップも見に行きました。平和記念資料館は、私も何度来ても学びがありますが、来日生、派遣候補生にも何かを感じ取ってもらえたのではないかと思います。

来日生と派遣候補生には2月のオリエンテーションで研修旅行について発表してもらいます。この発表がさらなる学びになり、世界平和への懸け橋へのきっかけとなると確信しています。スポンサー・ホストクラブの皆様には大変なご負担をおかけしているとは思いますが、きっとそれ以上の見返りがあるものと思います。それ以外の皆様におかれましても、ぜひ青少年交換プログラムへの継続的なご協力をお願いいたします。きっと何か得られるものがあるはずです。





会員増強の手応え

地区会員増強委員長 **加野 亮一**（神奈川東）

今年度前半の主な活動としては、8月の会員増強月間を中心に9クラブに卓話に伺いました。私が委員長になった昨年度より卓話内容を見直し、昨年の「会員増強の具体的方法紹介」から、さらに今年度はバージョンアップしました。会員それぞれがいかに会員増強に貢献してきたか？ 努力をしてきたか？ という現状を、MY ROTARY から取得できる一覧表で確認し、「自分は誰のスポンサーで入会したか？」そして「自分は次の誰の何人のスポンサーになっているか？」を見てもらい、ロータリーでの嬉しい体験などをグループディスカッションしてもらいながら、『自分がロータリアンになれた感謝を自分で止めないで次の人に申し送りをする、つまりロータリアンでいられるこの喜びと感謝をもっともっと外部の人に伝えて、仲間になってもらって、感謝の申し送りをしましょう！』と訴えてきました。それにプラスして『会員増強の一番大事な要素は、会長幹事のやる気と本気度です！』と語ってきました。

また、地区初の衛星クラブが立ち上がり、その他にも2つのクラブが衛星クラブの結成に向けて頑張っています。他にも会員増強の為のオープン例会をするクラブも増えてきました。会員増強はすぐには結果が出ませんが、このような取組みや流れを今後とも応援また情報発信をしていきたいと思っています。



会員交流（親睦）の手応え

地区会員交流委員長 **谷川 公一**（横浜西）

上半期を振り返り、まず一番に心に浮かぶのは、10月28日に地区大会記念事業の一環として開催されました「ロータリー希望の風奨学金チャリティーコンサート」です。地区内すべてのクラブよりお申し込みをいただき、目標を大きく上回る計447名分のチケットにご支援を賜りましたこと、また当日も多くの皆さまにご来場いただき、多くのご厚志を頂戴しましたことに、改めて心より感謝申し上げます。皆さまの温かなご支援とご協力により、出演者と観客が一体となり、音楽の力を感じる、感謝と感動に包まれた素晴らしいひとときとなりました。これからも皆さまの善意のお気持ちを未来に引き継いでまいりたいと思っています。

今は3月6日開催予定の新会員交流イベント（フレッシュ交流会）に向け、準備を着実に進めています。今年度は堅苦しさをを感じる研修という形ではなく、新会員がリラックスして楽しめるような形式を目指し、入会5年未満の新会員を中心に120名の参加を目標としています。会場は新横浜グレイスホテルに決定しました。奉仕の共有と自然な交流が生まれる場をつくり、地区の未来を担う仲間がロータリーの魅力を“体験”として実感できる機会としたいと考えています。ぜひ多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

川崎西ロータリークラブ 創立 60 周年記念式典を終えて

川崎西 RC 会長 安藤 信行

川崎西 RC は、昨年 12 月 19 日（金）晴天に恵まれる中、創立 60 周年記念式典を無事執り行い、記念式典のテーマである「思いやり」を軸に、地域と奉仕の歩みを振り返り、次の 10 年への決意を新たにしました。

当日は、第 2590 地区より大塚ガバナーをはじめ、高津区区長、行政関係者、地域の奉仕団体、ロータリー関係各位にご臨席を賜り、また、長年交流を続ける姉妹クラブ・いわき平ロータリークラブの皆様にもご参加いただき、節目を共に祝う温かな場となりました。

特別記念講演としまして、2024-26 年度国際ロータリー理事水野功様に「ロータリーの現状と輝く未来に向けて」と題して国際ロータリーの実情を大変分かりやすく丁寧にお話しいただき、大変勉強になりました。

さらに記念事業としてウクライナ支援の寄付を行ったご縁から、ウクライナ大使館より二名の書記官が出席され、感謝の言葉を頂戴し、国際奉仕の精神が確かに届いていることを実感し、会員一同大きな励みとなりました。

60 年の歴史を支えてくださったすべての皆様に深く感謝申し上げるとともに、「思いやり」を胸に、これからも地域と世界のために歩みを進めてまいります。



大塚正一ガバナー



安藤信行川崎西 RC 会長



ウクライナ書記官より御礼の絵画贈呈

横浜南ローターアクトクラブ 創立 55 周年記念例会報告

横浜南ローターアクトクラブ会長 山崎 大雅

2025 年 12 月 12 日、横浜南ローターアクトクラブは創立 55 周年を迎えました。これを記念し、12 月 20 日に Union Harbor にて 55 周年記念例会を開催いたしました。多くの皆さまのご支援のもと迎えた 55 周年は、クラブのこれまでの歩みを振り返るとともに、未来へと視線を向ける節目の機会となりました。

本例会のテーマは「結ぶ」。50 周年記念例会のテーマであった「紡ぐ」を受け継ぎ、これまでに紡がれ

てきた想いや活動を、次の世代、そして未来へと確かに結んでいくことを目的として企画しました。当日は、南のテーマカラー「さくら色」を参加者全員に身につけていただき、会場は華やかで温かみのある一体感に包まれました。

例会前半では、過去 5 年間の歩みをクイズ形式で振り返り、OB・OG の皆さまとともにクラブの歴史を共有しました。後半では、地区代表経験者 3 名を迎え、「過去・現在・未来」に準えたパネルディスカッションを実施し、横浜南 RAC の歩みと現在地、そしてこれから目指す姿について率直な意見交換が行われました。また、大塚ガバナー、宮田ガバナーエレクト、横浜南 RC 福本会長より、55 周年に際して温かいご挨拶と祝辞を賜りました。

当日は 92 名の方にご参加いただき、世代や立場を超えて想いを共有し、過去を紡ぎ、未来へと結ぶ、テーマを体現した例会となりました。55 年の歴史に感謝するとともに、その想いを礎に、60 周年、そしてその先の未来に向けて、横浜南ローターアクトクラブは歩みを進めてまいります。



1970 年 結成式



大塚正一ガバナー



水谷透さんと市川亜結さん



横浜南 RAC55 周年集合写真

横浜市立大学ローターアクトクラブ 認証状伝達式・チャーターナイト報告

横浜市立大学ローターアクトクラブ会長 金 儒燦



12月22日、横浜市立大学ローターアクトクラブの認証状伝達式・チャーターナイトを開催いたしました。平日にもかかわらず、地区関係者の皆様、提唱クラブである横浜金沢八景ロータリークラブの皆様、近隣 RAC の皆様にご臨席賜り、厚く御礼申し上げます。私は今年度の米山奨学生としてロータリーにご縁をいただき、4月の RAC 説明会への参加をきっかけに設立準備に携わりました。清掃イベントの企画、会員増強、各種書類の作成・提出を経て、10月30日付で RI より加盟認証をいただき、この日を迎えることができました。慣れない準備の連続でご迷惑をお掛けした場面も多々ございましたが、温かく支えていただいたことに心より感謝申し上げます。設立3か月目の若いクラブですが、1月は所信表明、3月には横浜南 RAC および台湾のローターアクターの皆様との合同例会を予定しております。来春卒業を控える先輩として、後輩が活躍できる土台を整えつつ、ロータリアンの皆様と「一緒に企画し、実行する」活動を重ね、学生がロータリーの価値を体感できる場をつくってまいります。引き続きご指導ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



代表ノミニー選挙

河原地区RA代表ノミニー

このたび、地区ローターアクト代表ノミニー選挙に立候補するという、大きな挑戦をさせていただきました。正直に申し上げると、立候補を決めた瞬間から 自信と不安が入り混じった、落ち着かない気持ちでいたのが本音です。代表という立場は、



決して楽なものではなく、多くの責任と覚悟が求められます。それでもなお、「挑戦しなければ見えない景色があるのではないか」という思いが、私の背中を押しました。

選挙を通して強く感じたのは、ローターアクトという組織の温かさと、多様な価値観の存在です。立候補者として話す機会をいただく中で、多くの仲間から励ましの言葉や率直な意見をもらい、自分一人で立っているのではないのだと、改めて実感しました。同時に、代表という役割は「上に立つ人」ではなく、「仲間の中で一歩前に出て、責任を引き受ける人」なのだと、強く認識するようになりました。代表の経験は、結果に関わらず、私自身にとって大きな学びとなることでしょう。挑戦することでしか得られない成長があり、立場が人を育てるという言葉の意味を、身をもって感じています。これからも、ローターアクトの仲間と共に悩み、考え、支え合いながら、一歩ずつ前へ進んでいきたいと思います。

2027-28年度地区代表ノミニー選挙に
バイフロント横浜RAC所属の河原亘孝くんが強い覚悟を持って立候補し
無事【信任】されたことをご報告します。

岡本地区RA代表

振り返ると、全ては2年前、田中年度の地区見直し計画から始まりました。地区の存続を真剣に考えた時期もありましたが「みんなで再構築していこう」と中長期計画を立て、さまざまな取り組みを重ねてきました。その積み重ねが、確実に今へと繋がっていると感じています。

河原くんのスピーチで、特に心に残った言葉が2つあります。

「2590地区って結構レベル高いかも」

他地区行事に参加すると、自地区の良いところや見直すべき点が見えてきます。全国34地区の中で、会員数やクラブ数だけを見れば決して多くはありません。それでも、ほぼ全員がアクティブ会員で、頼れるメンバーが多い。それが2590地区の強みであると改めて感じました。

「俺しかいないそう思ったから」

シンプルでかっこいい立候補理由でした。きっと立候補に至るまで、たくさん悩み、考えたと思います。地区の現状や未来を見据えたうえで、「俺しかいない」と思ってくれたことが素直に嬉しかったです。

2590地区の未来は明るい！

この5年間、それぞれの熱い思いと責任感で、この選挙は続いてきました。今後はさらに、「やってみたい」「なりたい」そう思ってもらえる、憧れられる役職へとプランディングしていきたいです。

決意表明を聞き残りの下半期も

「まだまだやれるぞ！」と、

改めてわたし自身も気合が入りました。

河原くんの勇気に感謝を込めて。

2025年最後の地区行事、

良い締めくくりになりました。

ありがとう！



2026年

2

月刊 No.08

あなたの未来に FROM THE ROTARACT どんなときも

【新聞の作者】

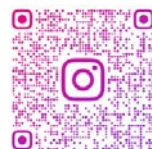
地区公共イメージ委員
所属：横浜南RAC

新川 智美



公式Instagramで
活動の様子を更新中

フォロー・いいね
お待ちしております



地区行事

RA地区 年次大会

2月28日(土)
ローズホテル



横浜RAC

① 横浜RC早川会長卓話

2月12日(木)
19:30~

uluru

横浜南RAC

① 第18回たばこの吸い殻&
ウォーキング例会

2月15日(日)
10:30~

関東学院中学校高等学校

バイフロント横浜RAC

① 池袋豊島東RAC合同例会

2月8日(日)
昼間予定

さくらリビング第一研修室

横浜市立大学RAC

① 通常例会

2月18日(水)
19:30~

金沢八景キャンパス いちようの館

地区同好会紹介⑦ トレッキング同好会

代表世話人 佐藤 佳一（新横浜）



学生時代にワンダーフォーゲル部に属しており、過去に地区で実施した青少年交換学生の登山（富士山、大山、景信山など）や、所属クラブ（新横浜 RC）の会員有志に呼びかけて百名山の登山などを実施していたことから、約3年前に樋口ガバナー（当時）から登山の同好会を作って欲しいとの依頼があり、名称を「トレッキング同好会」としました。

同好会を立ち上げたものの、地区の委員会活動や仕事に追われ、精神的、物理的にも余裕がなくなかなか活動をスタートできませんでした。

何名かの方から HP を通じて入会希望の連絡をいただいていたこともあり、遅ればせながら活動をスタートすることに致しました。

先ず、昨年9月16日に入会希望者（7名）の皆様が集まっていただき、発足会（顔合わせ）、懇親会を開催し、第1回トレッキングの打ち合わせを行いました。

第1回トレッキングは11月23日に8名が参加し、弘法山ハイキングコースにて実施しました。秦野駅から浅間山～権現山～弘法山～鶴巻温泉に至る歩行距離約7.4km、歩行時間約3時間のコースです。

当日は好天に恵まれ、ゆっくりとしたペースで和気あいあいと、弘法山の山頂でお弁当を食べ、紅葉がきれいな整備された山道を歩きました。

ゴール後に「弘法の里湯」で入浴して疲れを癒し、参加者の交流を深め有意義な時間を過ごすことができました。

第2回は、4月26日に実施します。コースはこれから決めますが、日帰りで新緑の綺麗なコースを予定しています。

第3回は、6月5日～6日、松枝岐に泊まって尾瀬沼に行き、水芭蕉を観賞するツアーを企画しています。

活動方針としては、年2回～4回、きつい登山は避け安全を最優先に、無理なく楽しんでいただける山行で、親睦・交流を深めたいと考えております。入会を希望される方は、HPを通じてお願いします。歓迎致します。

現在の会員名（順不同・敬称略）

野口 隆史（神奈川）、五十嵐 正（横浜旭）、佐々部 宣宏（横浜港南）、鈴木 秀行（横浜）、船木 拓志・澤村 栄美子（横浜西）、佐藤 佳一（新横浜）



2026-27 年度「地区補助金」プロジェクト募集開始案内

地区ロータリー財団委員長 鈴木 慎二郎（川崎マリーン）

1月7日に各RC宛メールでご案内の通り、現在2026-27年度「地区補助金」対象プロジェクトを募集しております。「地区補助金」プログラムでは、地元地域社会のみならず、国内・海外におけるロータリー財団の使命に沿ったプロジェクトも補助金の対象となります。また、プロジェクトの立案・申請時期は、実施年度の前年度後半となりますので、各クラブにおかれましては、当地区の下記募集要領をご確認の上、会長・会長エレクト、現・次ロータリー財団始め関連委員会でご検討頂き、この補助金の趣旨に見合う2026-27年度プロジェクトを奮ってご申請下さい。

2026-27 年度 D2590 の「地区補助金」対象プロジェクト募集要領

対象プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ロータリー財団の使命*に沿った、国内の社会奉仕プロジェクト、及び海外（又は海外と国内）を対象とした国際奉仕プロジェクト ロータリアンが積極的に参加するプロジェクト 2026年7月1日以降に開始・実施のプロジェクト <p>※ロータリー財団の使命は、ロータリー会員が、人びとの健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保護に取り組み、貧困をなくすことを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるよう支援することです。</p>
参加条件	<ul style="list-style-type: none"> 2025.10.3 実施の地区ロータリー財団セミナーに出席していること 2025.12.8 実施の地区ロータリー財団補助金管理セミナーに出席していること 地区にクラブ参加資格認定：覚書（MOU）を提出していること 2025.12.22 送付済
申請に当たり（地区）	<ul style="list-style-type: none"> 申請は1クラブにつき1プロジェクトのみ 補助金額は上限\$3,000、但しプロジェクト総額の20%はクラブにて負担のこと（∴\$3,000の補助金を受けるには、\$3,750以上のプロジェクトとなる） プロジェクト総額に制限はなし 補助金額は地区にて決定 プロジェクト選考に当たり、実施年度のDDFへの寄付実績が考慮されてくる（年次寄付1人当りの目標額\$150以上を達成したかどうか、2026-27年度プロジェクト選考に影響する） 内容が異なっても、過去に地区補助金を使用した同一支援先への支援は不可 プロジェクト実施後30日以内に請求書・領収証本紙、プロジェクト実施時の写真、広報誌掲載の場合は写し等を添付の上、報告書提出の義務あり
申請期日	2026年2月27日（金）
申請方法	申請書（添付②フォーム）入力、会長・会長エレクトご署名の上、郵送にて
申請先	国際ロータリー第2590地区ガバナー事務所 宛 〒231-0016 横浜市中区真砂町4-43 木下商事ビル5F
制約事項（RI）	<ul style="list-style-type: none"> 特定の政治的、宗教的観点を推進する活動、宗教活動は不可 土地や建物の購入は不可 プロジェクト受益者や協力団体への単なる現金寄付は不可 ロータリー財団の審査・承認前に既に経費が発生した活動は不可 ロータリーのロゴマークは規定に則り正確に使用 プロジェクトに関与するクラブの会員が、実施に当たりいささかなりとも不当な利益・恩恵を受けることは不可 支援先が異なる場合も同一プロジェクトの申請は原則3年度まで 〔詳細は『ロータリー財団地区補助金 授与と受諾の条件』を参照〕

地区補助金プロジェクトの採用にあたり当地区が重視する選考基準は、下記の通りです。

- 人道的、教育的、又はその両方の要素を含み、内容が優れ、ロータリアンの積極的関与がなされ、ロータリーが広く認知されるような社会奉仕プロジェクトを優先
- 同一プロジェクトと新規プロジェクト、双方優良であった場合は後者を優先

新会員のご紹介



虎谷 英彦
(川崎)
一般土木建築工事業
2026年1月8日入会



若山 良孝
(神奈川)
輸送（貨物自動車運送事業）
2025年12月2日入会



古谷 美由紀
(神奈川)
不動産賃貸
2025年12月18日入会



山田 健
(横浜)
電気機器販売
2025年11月25日入会



澤井 弘光
(横浜)
ビール販売
2025年11月25日入会



鈴木 哲
(横浜)
不動産賃貸
2025年11月25日入会



田村 祐一郎
(横浜金沢東)
デザイン
2026年1月6日入会



松岡 謙太郎
(横浜西)
広告
2026年1月7日入会

2025-26 年度ロータリー青少年交換学生紹介

● 受入学生追加 1名

ひと足遅れで来日し、10月より加わりました。当地区の受け入れ学生は計4名となりました。皆様よろしくお願ひします。



氏 名: Chanakan HANJUN
ニックネーム: Am (エム)
ホストクラブ: 新横浜RC
出身国・地区: タイ D3330
スポンサークラブ: Samutsakhon RC

国際ロータリー第2590地区 2025年12月会員数報告(RC・RAC)

グループ	クラブ名	例会数	会員数()内女性				
			12月末日	年初7/1	本年度入会者	本年度退会者	本年度増減
1	川崎	4	59(4)	58(4)	2(0)	1(0)	1(0)
	川崎南	3	30(5)	29(4)	2(1)	1(0)	1(1)
	川崎幸	3	41(8)	40(8)	1(0)	0(0)	1(0)
	川崎大師	3	40(4)	42(4)	1(0)	3(0)	-2(0)
	川崎中央	3	43(12)	45(12)	0(0)	2(0)	-2(0)
	川崎マリーン	3	33(4)	33(4)	2(0)	2(0)	0(0)
	新川崎	2	17(2)	14(3)	4(0)	1(1)	3(-1)
	小計		263(39)	261(39)	12(1)	10(1)	2(0)
2	川崎北	3	46(9)	36(4)	11(5)	1(0)	10(5)
	川崎中	3	40(4)	39(4)	1(0)	0(0)	1(0)
	川崎鷺沼	3	26(2)	25(2)	1(0)	0(0)	1(0)
	川崎中原	2	21(3)	21(3)	0(0)	0(0)	0(0)
	川崎とどろき	3	14(3)	12(3)	2(0)	0(0)	2(0)
	小計		147(21)	133(16)	15(5)	1(0)	14(5)
3	川崎西	4	64(3)	62(3)	2(0)	0(0)	2(0)
	川崎西北	3	23(2)	23(2)	0(0)	0(0)	0(0)
	川崎百合丘	4	50(7)	49(7)	2(1)	1(1)	1(0)
	川崎高津	3	37(1)	34(0)	3(1)	0(0)	3(1)
	川崎麻生	3	25(1)	25(1)	0(0)	0(0)	0(0)
	川崎高津南	3	19(1)	17(1)	2(0)	0(0)	2(0)
	小計		218(15)	210(14)	9(2)	1(1)	8(1)
4	横浜東	3	50(4)	51(4)	0(0)	1(0)	-1(0)
	神奈川	3	34(4)	32(3)	3(1)	1(0)	2(1)
	横浜港北	3	38(7)	38(7)	1(0)	1(0)	0(0)
	横浜鶴見北	4	32(3)	32(2)	1(1)	1(0)	0(1)
	神奈川東	3	44(3)	46(3)	0(0)	2(0)	-2(0)
	横浜北	2	21(3)	19(2)	2(1)	0(0)	2(1)
	横浜都筑	3	32(2)	30(0)	2(2)	0(0)	2(2)
	横浜日吉	3	40(8)	38(7)	2(1)	0(0)	2(1)
	小計		291(34)	286(28)	11(6)	6(0)	5(6)

* 川崎北RC会員数の内訳

川崎北	3	37(4)	36(4)	2(0)	1(0)	1(0)
川崎北YOKOHAMAロータリー衛星クラブ	2	9(5)	0(0)	9(5)	0(0)	9(5)

グループ	クラブ名	例会数	12月末日	年初7/1	本年度入会者	本年度退会者	本年度増減
5	横浜南	4	41(4)	43(4)	0(0)	2(0)	-2(0)
	横浜港南	2	29(4)	26(4)	5(1)	2(1)	3(0)
	横浜旭	3	20(2)	20(2)	0(0)	0(0)	0(0)
	横浜瀬谷	3	26(4)	25(2)	2(2)	1(0)	1(2)
	横浜緑	4	24(4)	23(4)	1(0)	0(0)	1(0)
	横浜田園	3	21(2)	20(0)	2(2)	1(0)	1(2)
	横浜南陵	3	30(1)	30(1)	0(0)	0(0)	0(0)
	新横浜	3	29(3)	29(4)	1(0)	1(1)	0(-1)
	横浜あざみ	4	9(7)	9(7)	0(0)	0(0)	0(0)
	横浜南央	4	36(4)	35(3)	1(1)	0(0)	1(1)
	小計		265(35)	260(31)	12(6)	7(2)	5(4)
6	横浜	5	191(4)	184(2)	13(2)	6(0)	7(2)
	横浜磯子	3	17(2)	16(2)	3(0)	2(0)	1(0)
	横浜金沢八景	4	35(11)	31(9)	4(2)	0(0)	4(2)
	横浜中	3	51(10)	52(10)	1(1)	2(1)	-1(0)
	横浜金沢東	3	27(2)	27(2)	0(0)	0(0)	0(0)
	横浜山手	4	23(6)	25(6)	0(0)	2(0)	-2(0)
	横浜ベイ	2	39(6)	38(6)	1(0)	0(0)	1(0)
	小計		383(41)	373(37)	22(5)	12(1)	10(4)
7	横浜西	4	93(13)	85(13)	8(0)	0(0)	8(0)
	横浜戸塚	4	42(5)	42(5)	2(0)	2(0)	0(0)
	横浜保土ヶ谷	4	22(2)	22(2)	0(0)	0(0)	0(0)
	横浜戸塚西	4	16(1)	16(1)	0(0)	0(0)	0(0)
	横浜泉	3	21(2)	21(2)	1(0)	1(0)	0(0)
	横浜MM21	4	31(1)	30(1)	1(0)	0(0)	1(0)
	横浜戸塚中央	3	15(0)	16(0)	0(0)	1(0)	-1(0)
	小計		240(24)	232(24)	12(0)	4(0)	8(0)
合計			1807(209)	1755(189)	93(25)	41(5)	52(20)

RAC	横浜南	1	23(11)	18(10)	6(2)	1(1)	5(1)
	横浜	1	12(5)	9(5)	4(1)	1(1)	3(0)
	ベイフロント横浜	1	5(0)	5(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	横浜市立大学	0	15(11)	0(0)	17(12)	2(1)	15(11)
合計			55(27)	32(15)	27(15)	4(3)	23(12)

クラブ数	会員総数 (7月1日現在 1,755名)	本年度入会者	本年度退会者	本年度会員増減数
50RC	1,807名 (内女性会員 209名)	93名	41名	+52名

クラブ数	会員総数 (7月1日現在 1,787名)	本年度入会者	本年度退会者	本年度会員増減数
50RC・4RAC	1,862名 (内女性会員 236名)	120名	45名	+75名